



## PTA 母親委員 おすすめの本紹介②



### 『ま、いっか!』サトシン、えほんの杜 ★

こていかんねん  
固定観念にとらわれず、たまには肩の力を抜いてリラックスしたい時、悩みつかれた時に読んで欲しい1冊です。



### 『大きな森の小さな家』ローラ・インガルス・ワイルダー、福音館書店 ★

わたし ちゅうがくじだい よ  
私が中学時代に読んで、心の中に残っている本です。1800年代アメリカでの作者の少女時代を家族とともに開拓生活の中での思い出をもとに書いた本です。その後の続きもあります。この時代に少しでも興味がある人は読んでみてください。



### 『あの花が咲く丘で君とまた出会えたら』汐見夏衛、スターツ出版★

こう  
○高1になる姉のオススメです。人の大切さが分かる感動作品です。

へいわ げんだい にほん い わたし えんどお せんそう すべ ひと けいけん  
○平和な現代の日本に生きる私たちにとっては縁遠い「戦争」と全ての人が経験する「恋愛」を結びつけた物語です。大切な人の命を奪われることの悲痛。涙なくしては読めません。続編の『あの星が降る丘で君とまた出会いたい』もおすすめです。



### 『まいにち食べたい”ごはんのような”クッキーとビスケットの本』

なかしましほ、主婦と生活社 ★

まいにちえいぎょう  
コンビニやスーパーが毎日営業しており、手を伸ばせば何でも買える時代です。バターも生クリームも使わないお菓子。毎日食べても体に負担のない、ごはんのようなおやつ。忙しい中学生ですが、心も体も満たされるクッキーの本。ぜひ見てもらいたい本です。



### 『天使の子』小手鞠い、河出書房新社 ★

てんし こ こてまり かわいでしょぼうしんしゃ  
愛することは受け入れること。心揺さぶられる愛のかたちが、実話を元にして描かれています。中学生には少し難しい大人の恋愛小説ですが、アメリカ在住である著者ならではの美しい描写や表現も見どころあります。児童書も出されているので、小手鞠いさんの本はどれもおすすめです。



『かがみの孤城』辻村深月、ポプラ社 ★

もし、今生きづらいつ感じている人がいたら、是非読んで欲しいなと思う本です。きっと1人じゃないと思えると思えます。光る鏡の中に、あなたも入ってみませんか？



『14歳の君へ どう考えどう生きるか』池田晶子、毎日新聞社 ★

この生きにくい世の中で、幸せに生きていくために、中学時代の今からどう生きていくのか…。あまりゆっくり考えることはないかもしれませんが、迷ったり悩んだりした時にふっと考える瞬間がくると思えます。そんな時に自分で考える力が芽生えるヒントになるような本です。【紹介者：鶴林らみさん】



『オオカミ王ロボ』アーネスト・T・シートン、童心社 ★

オオカミ王「ロボ」から家畜を守るため、人間たちは知恵を絞っているいろんなワナを仕掛けますが、頭の良いロボはすぐに見破ってしまいます。困った人間たちは、ロボの妻「ブランカ」を捕まえておとりにしてロボを捕まえる作戦を思い付きます…。ロボの気高さ、妻への愛情の深さに心打たれる作品です。



『新 13歳のハローワーク』村上龍、幻冬舎 ★

○社会には様々な仕事があり、これからを生きる中学生にぜひ読んでほしい一冊です。将来何になりたいのかわからない=いろんな職業を知らない為かもしれません。興味のある職業に出会えるかもしれないと思わせてくれる本です。  
○将来のことを考えた時に、たくさんの職業を知って世の中の仕事について考えてほしいと思えます。



『三毛猫ホームズの推理』赤川次郎、角川書店 ★

頼りない刑事と三毛猫がコンビで事件を解決していく作品です。シリーズもたくさんあって、次々読んでいた大好きな作品です。



『十二番目の天使』オグ・マンディーノ、求龍堂 ★

困難に立ち向かう勇気とあきらめない心をくれる本です。生きる希望を失った男性と野球がヘタでも一生懸命挑む男の子との感動のストーリー。よりよい人生を生きるためのヒントがたくさん詰まっています。読み終わったあと、何かが変わる。そんな本です。【紹介者：吉村美登里さん】

たくさんのご紹介、ありがとうございます！次回にも続きますのでお楽しみに！